情報リテラシー教育の再考

～図書館目線から離れるには～

OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

久保山　健 (KUBOYAMA Takeshi)
大阪大学附属図書館 利用支援課（サービス企画主担当）

<November 30, 2012>

学術情報リテラシー教育担当者研修

会場：　国立情報学研究所

公開版

(0) はじめに

■到達目標

- 大学教育、ICTを巡る環境変化の中で、情報リテラシー教育のあり方を考える。

- 受講者の職場における対応策を考えるきっかけとする。

(0) はじめに

■本講義の要点

「情報リテラシー教育の再考」

◆大学教育との距離の縮め方を考える。

-- 顔の見える関係から問題意識・関心の共有 --

◆ユーザインタフェースを改めて考える。

-- フロントにいる人も使われやすいデザインを --

◆学生に伝える内容を考える。

-- 各種ツールと顧客の選択行動を再検討することから --

(0) はじめに

■講師／職場のバックグラウンド

- 図書館スタッフ：

  授業一コマでの「図書館活用法入門」

  論文の探し方講習など

- Teaching Assistant：学習相談、講習など

- 教員と図書館スタッフ：

  レポート講座

  論文の書き方・読み方

  話す基本技術

(0) はじめに

■情報リテラシー教育のステレオタイプ

- 図書館は便利なんだから、しっかり使って勉強してね。
- OPACもDBも、便利なんだからちゃんと覚えてね。
- GoogleよりWikipediaより、図書館ツールよ。
- 前方一致とか論理演算とか使って、ちゃんと調べてね。
- 高価なDB、利用実績も上げなきゃ。

＜皆さんの悩み(推測)＞

- ニーズの把握
- 学生を飽きさせないように
- プレゼン技術向上
- 効果的な広報

2012年11月7日オープン

「グローバル・コモンズ」

- 多言語多文化理解のための共同学習スペース

・学びのスタイルの多様化
・国際化

※「結果」より「過程」

GLOBAL COMMONS
OSAKA UNIVERSITY LIBRARY

(1)大学教育との距離の縮め方

■ステークホルダー

- 学生

  学習、知識やスキルの習得

  卒業～キャリア形成

- 教員

  教育、知識やスキルの伝達・習得を促す

※学生や教員にとっての「価値」とは何か

(1)大学教育との距離の縮め方

■プレイヤー

- 共通教育部門（各教員・各種サポート室）
- 学生（まずは図書館によく来る／図書館に近い活動をしている層）
- 各部局（各教員）
- 情報系の部署
- 国際交流の部署
- 学生支援／キャリア支援の部署

(1)大学教育との距離の縮め方

■教育との距離の縮め方（例）

- 講習会などの商品化・事業化

  問題意識を共有できる教員と協働

  話題の共通性；話題の広がり

- 授業、講習会、新コモンズのグループインタビュー、パンキョー革命

→「顔の見える関係」

(1)大学教育との距離の縮め方

- 次は？

→ <u>接点を増やして、価値観や方向性の共有</u>

(*)教員や学生の行動や考えていることって分かる？
分からないとして、ではどうする？
まずは雑談から？
他のイベントで接点作りも。

- グローバル・コモンズ
…さえもマーケティング・ツール!?

(1)大学教育との距離の縮め方

■授業で必要とされる「サービスメニュー」の共同開発？

(*) 図書館事情のコンテンツではなく

(例)本の探し方・一般的ツール・図書館の使い方
レポートの書き方講座（一コマ版）、話し方
特定の授業向けの文献リスト　など・・・

×：OPACの検索の仕方（分かるでしょ/説明が必要なシステムなんて）

■大事なのは

「声かけ」「トライ・アンド・エラー」

(2) ユーザインタフェースを考える

- ディスカバリ・サービス、次世代型OPACの広がり
- しかし…
  - それ以前に種々の検索サービスに「マニュアル」がある?　見る?
  - 説明が必要なツールを提供している?

→何が変わるか

・やめる；　コアユーザは来るだろうから続ける

・深い内容に重点を移す；　見せ方を変える

・内容を変える

(2) ユーザインタフェースを考える

■皆さんへの期待

○皆さんの立場＝ユーザ対応のフロント

○OPAC等検索サービス改善の[後方]支援

・システムのことよく分からない?

→情報の重要度、使いやすさはどう?

・使い方を教えなくてよいデザイン

(*)その上で漏れたところは何らかの方法で

(2) ユーザインタフェースを考える

■質問

○情報の重要度、説明を減らすための見せ方の観点で、次の画面例の問題点を考えよう。

(2) ユーザインタフェースを考える

- 文献データベースの可視性を高めるために…

  例えば、

  日経新聞電子版 Windows8 専用アプリのような発想は？

- 物理的な案内（書架側板の案内の作り方等）でも、”教える”内容は減る

(2) ユーザインタフェースを考える

■ディスカバリ・サービスが広がっても

○画面上/Webサイト上のナビゲーション

○スタッフは一定以上の詳しさが必要

○見つけられやすくするためのデータ管理

○使われ方の分析、調査、改善

○個別の検索ツールは当面続く

○利用のサポートは続く

「皆さんの主体的な改善は続く」

(3) 伝える内容を考える

■ 大学/大学図書館の環境、ICT環境が変わってきて、伝えることは何か

○少なくとも図書館事情によるものは、相対的に（初年次、必修科目等では）少なくなるのでは。

（詳細検索、論理演算、請求記号の意味…）

○講習会に[わざわざ]来てもらえるか、図書館の使い方に興味を感じてもらえるかと、

あえて問い直す必要はないか。

(3) 伝える内容を考える

■質問

(1)4月以降に、情報リテラシー教育関連で改善したことを書き上げてください。

(2)それは（どういう理由　　）で（誰　　）が喜ぶと考えたのですか。

(3) 伝える内容を考える

■ （例）

(1-A)申込制の○○の内容(時間)を増加させた。

(2-A)従来のアンケートでもニーズが記入され、教員にも相談すると前向きな意見をもらえたので、

受講した学生が　喜ぶと考えた。

(1-B)新入生向け図書館ツアーの内容を絞った≒減らした。

(2-B)覚えることの多い新入生に、小さい負担で効果的に内容を覚えてもらえるので、

新入生の負担が　減る

図書館スタッフが　事後の対応を効果的にできる　と考えた。

(3) 伝える内容を考える

■例えば…

○特に初年次、必修科目等では、内容の整理。
あるいは、より興味を感じる方法。

○個別対応、定例化などによって、ニーズを引き出す努力。
（例、OPAC端末の横で札でも立てて…）

○個別のDBを使いこなす能力；文書にまとめる能力；伝える能力…

(3) 伝える内容を考える

■例えば…

○基本的に自己満足でなく、ニーズ把握のトライ・アンド・エラーをしながら。

○「うれしい」と思ってもらえるテーマ、内容。

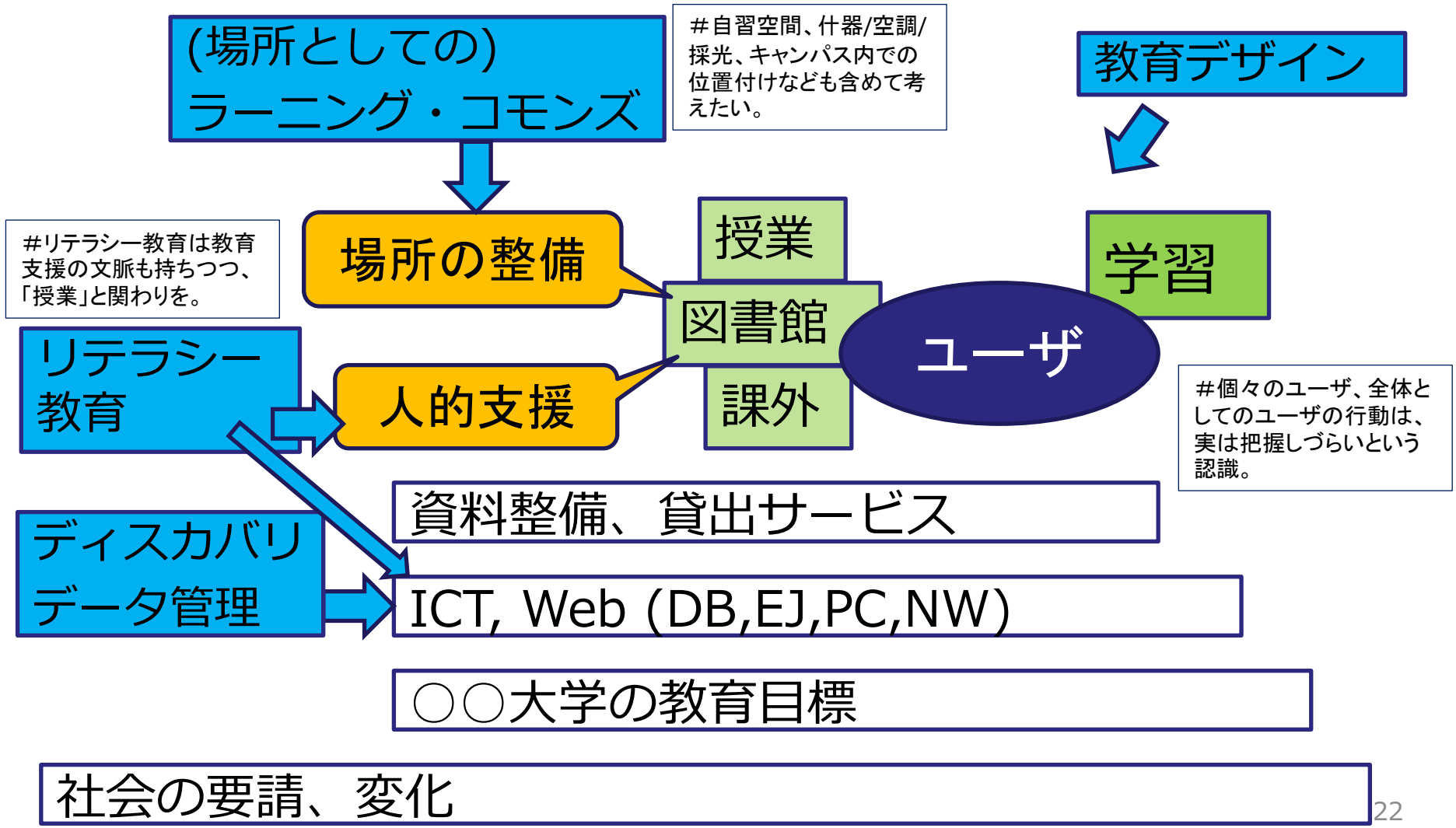
「常に問い直す必要」

※しかし…

・時間、職員という身分の制限

「時間を作る。仲間を作る」

(4) まとめ


(場所としての)
ラーニング・コモンズ
＃自習空間、什器/空調/採光、キャンパス内での位置付けなども含めて考えたい。
教育デザイン
場所の整備
＃リテラシー教育は教育支援の文脈も持ちつつ、「授業」と関わりを。
授業
図書館
課外
学習
ユーザ
リテラシー教育
人的支援
＃個々のユーザ、全体としてのユーザの行動は、実は把握しづらいという認識。
資料整備、貸出サービス
ディスカバリ
データ管理
ICT, Web (DB,EJ,PC,NW)
○○大学の教育目標
社会の要請、変化

(4) まとめ

○部署を離れる時に、ご挨拶メールを送る教員等は何人いますか

○半年以内に、何か実現しましょう。改善しましょう。

○情報リテラシー教育を再考するのは 誰？

(補遺) 充実化の先に

■図書館スタッフによる情報リテラシー教育、授業内/外を問わず、内容や回数が充実することは望ましいと考えますか?（Yes　No）

◆全学生をフォローできるのか。
どこに目標ラインを設定するか。

◆それに見合う人員・体制を取れるのか。

◆教員、TAに役割を譲る結果にならないか。

☆個人的には連携構築を近い目標に。
☆教員との連携、TA活用、資料の活用　？

(4) まとめ

■本講義の要点

「情報リテラシー教育の再考」

◆大学教育との距離の縮め方を考える。

-- 顔の見える関係から問題意識・関心の共有 --

◆ユーザインタフェースを改めて考える。

-- フロントにいる人も使われやすいデザインを --

◆学生に伝える内容を考える。

-- 各種ツールと顧客の選択行動を再検討することから --

(ラーニング・コモンズに関する参考資料)

※本発表資料は、同じタイトルで10月26日に大阪大学会場で行われた天野絵里子氏の資料のアイデアを援用しながら作成した。

(1) 米澤誠. インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援. カレントアウェアネス, No.289. 2006.9.20

http://current.ndl.go.jp/ca1603

(2) 米澤誠. ラーニング・コモンズの本質：ICT 時代における情報リテラシー／オープン教育を実現する基盤施設としての図書館. 名古屋大学附属図書館研究年報. No.7. 2008.

http://libst.nul.nagoya-u.ac.jp/pdf/annals_07.pdf

(3) 永田治樹. 大学図書館における新しい「場」：インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ. 名古屋大学附属図書館研究年報. No.7. 2008.

http://libst.nul.nagoya-u.ac.jp/pdf/annals_07.pdf

(4) 永田治樹. 図書館とインフォメーション・コモンズ：情報社会における共有資源. 情報管理. Vol.53, no.7. 2010.

(教育支援に関連する答申等)

(11) 大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像（平成22年12月 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

(12) 上記の概要：
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1306126.htm

(13) 学士課程教育の構築に向けて（答申）2008(H20).12.24 中央教育審議会
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf

(14) 大学教育の分野別質保証の在り方について　2010(H22).7.22 日本学術会議
http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-k100-1.pdf

(15)「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」（審議まとめ）2012(H24).3.26 中央教育審議会大学分科会大学教育部会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm

(参考) オススメ本

(21)「100円のコーラを1000円で売る方法」中経出版 (2011/11)

2時間くらいで読める軽い内容だが、マーケティングや企業価値のイロハを考えられる。

(22)「SEの勉強法」日本実業出版社 (2010/5)

システムエンジニアって関係ないと思ったら大間違い。仕事の進め方、まとめ方を解説。兄弟本もあり。

(23)「学びの空間が大学を変える」ボイックス株式会社; 初版(2010/5)

どちらかと言うと空間や設備論？　しかし、大事なポイント。

(24)「ラーニング・コモンズ: 大学図書館の新しいかたち」勁草書房 (2012/7)

(25) 新聞（一般紙、日経新聞)

(26)「『分かりやすい表現』の技術―意図を正しく伝えるための16のルール 」講談社ブルーバックス（1999/3)

オススメ